中筋小学校だより

校訓 ～ 強い身體 正しい心 ～

舞鶴市立中筋小学校
学校だより 12月号
令和４年12月23日発行
http://nakasuji.maizuru.edumap.jp/
☎７５－０３７２

幸 福 度

11月20日から始まったサッカーワールドカップ。大方の予想を覆し、初戦でドイツ、第３戦でスペインを共に撃破し、見事グループリーグを１位で突破する快挙を成し遂げました。決勝トーナメントでは、非常に悔しい敗戦となり、「新しい景色」を見るのはおあずけとなりましたが、日本の大躍進に日本中が沸き返りました。

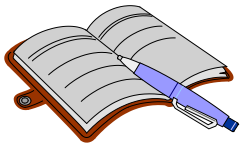
そんな中で日本代表を率いた森保監督のあるものが今注目を浴びています。「森保メモ」です。ご覧になった方も多かったと思いますが、監督が試合中にちょくちょくメモを取っている場面が映し出されました。「いったい何をメモしてるんだろう」「きっと選手の状態やフォーメーション、戦略に関わることだろうな」と想像した人も多かったと思いますが、ニュースで書かれている文字をとらえた画像が出され、そこには「日本に不可能はない」という言葉が見て取れました。きっとそれだけではないと思いますが、監督というプレッシャーの中で自分を鼓舞する言葉を記していたことが分かりました。

さて、前置きが長くなりましたが、情報化社会の中で「手書き」文化が衰退していることは想像に難くないですが、こんな研究結果を目にしました。「手書きをする方が記憶に残る。」これはこれまでにも聞いたことがあり、私も実際に学生時代から何かを覚える際には、記憶する内容をノートに何度も書いて覚えました。このことはいろいろな研究や実験でも実証されているようです。

この結果のほかにもう一つ目にしたのは、「手書きをする人の方が幸福度が高い」という内容でした。「手書き」と「幸福度」というその関係性にとても興味がわきました。最近はスマホやタブレットでスケジュール管理をしたり、メモを残したりする人が増えています。手で書くことと電子媒体に記録することにどんな違いがあるのかと思いますが、調べるとこんなふうに考察されていました。

『　手書きの手帳や日記を使うと、時間と向き合いやすくなり、自分らしさにつながる行動や未来に向けた一歩が踏み出しやすくなるようです。さらにそのことは、人生の幸福度にもつながっていることがわかりました。

手帳や日記は、目に見えない時間を可視化することができ、過去・現在・未来といった時間の流れをとらえやすくするツールです。また、ペンを持って自由に書くことで、思考や感情の拡散と収束が進み、心が整うと言われています。アプリやスケジューラーの使用が当たり前になっている今、手書きの手帳や日記は、時間にしっかりと向き合いながら、自身を見つめることができるアイテムと言えるのではないでしょうか。』



日々ＩＴ機器を駆使して、忙しい現代社会を過ごされている方からすると、そんなことはないと怒られてしまうかもしれませんが、実際に小学校の現場でもタブレットが導入され、子どもたちが自分の考えや思考のまとめをタブレット上に残していく機会は増えています。それもこれからの時代を担う子どもたちには必要不可欠な力です。

しかし、その人の個性や思いがにじみ出る「手書き」のよさも人生を生きていく上での土台を作る小学校では、大切にしたいなと感じます。何かをしてもらったときに書くお礼の手紙。休んだ友達へ書くメッセージ。手書きから伝わる書いた人の思いがその人の書いた字を通して伝わってくる。なんか素敵です。そんな文化をこれからも大事にしていきたいなと思います。この暮れの時期、懐かしい友達や日頃お世話になっている方へ手書きのお手紙を送るということも、手書きだからこそという意味があるのかもしれません。手書きの手紙をもらうともらった方もなんだかうれしい気持ちになります。自分も人もその幸福度を上げる、そんな「手書き」ということをもう一度見つめ直す機会になればと思います。森保監督も、手書きした自分へのメッセージが現実として現れ、きっと幸福度は上がっているに違いありません。

欠席の児童もいる中ではありましたが、本日、無事に２学期の終業式を迎えることができました。これも、地域・保護者の皆様のご支援・ご協力のおかげと心よりお礼申しあげます。束の間の短い冬休みとなりますが、子どもたちにとって楽しみの多い休みとなります。この時期にしかない日本の伝統を感じたり、家族の一員として仕事を頑張ったり、貴重な経験がたくさん詰まった有意義な休みになればと思います。ご家族おそろいで、よい年をお迎えください。

校長　亀井　敬介　　教職員一同